

2014. 12. 12~14 芦別岳・旧道～北尾根～1稜～新道

2015. 2. 9

井出康太

年末の利尻山・東北稜のプレとして、おもに稜線歩きとリッジ登攀をするために行ってきた。

本谷アプローチの1稜は、ネットで検索するとわずかだが記録が出てくる。ガイドで富良野在住のN原さんは1～4稜の継続もしていたので、可能なアプローチなんだ！と安心して計画を立てたが、実際は気持ちわるいアプローチだった…。

12日

朝4時に札幌を出発。8時には太陽の里を出発できた。この時期、十八線の沢ルートは雪が少なく藪が出ていてまだ使えないようなので、旧道からのアプローチである。今回はストックなしで足元はスノーシューで行った。ユーフレ小屋との分岐には12時ころ到着。ここまでは快調だったが、その後は傾斜も急になり、少なくとも膝上、深くて胸くらいのラッセルでペースが落ちる。夫婦分岐で夏道はずれ、そのまま沢を詰めるが、細々とした枝藪の嵐でさらにペースが落ちる。計画では北尾根にのってC1のつもりだったが、届くはずもなく、16時ころ1060mあたりで終了。明日の朝、少し早く出ることにしてテン泊。



13日

2時起床、4時出発。まだ暗くて現在地が良く分からない。・1279を目指して進んでいくとだんだん風の音がすごくなってきた、稜線は暴風かなあ…と不安になる。ふと左をみると暗闇の中に大岸壁！夫婦岩が不気味に見える。そこから北尾根に出ようと思っていたが、どうやら忠実に沢を詰めてしまったようで、8時ころ・1444に出た。後半の急傾斜は灌木を掴んで登り、けっこう疲れた。稜線はハイマツの落とし穴や膝ラッセル。ガスの中で断続的に吹雪。ローソク岩手前でスノーシューからアイゼンに替え、バイルを握る。キレットは夏道がかすかに分かり、大したことなく歩きやすかった。14時ころ芦別岳の西コル（通称お花畑）到着。時間もないので1稜は明日の朝登ることに。このプレで雪洞の練習をしようと考えていたが、雪が少なすぎたのでテントのまわりにブロックを積んで終了。夜、寒波が来ていたので寒くてドラゴンフライを焚いていたら、プスプスと言出しガス欠の予感。燃料をケチリすぎたか！？急いで消してシュラフに潜りこみ就寝。



14日

3時起床。さむい。さむすぎて、何度も起きた。僕は足先がどうしても温かくなり、ときどき手で握って温めては寝るということを繰り返していた…。お陰で下山後、念願の像足を購入となる。さて、心配していたドラゴンフライはなんとか燃料がもち、雑炊を作ることができた。出発前にキジを打つと、一瞬で指がもげそうになるほどの寒さだった。まもなく薄暗い中の本谷下降、なんとも言えない気持ちわるさ。しばらくは雪が硬かったが、150mほど下りると胸まで埋まるほどに。その先もさらに急で細くなるため、雪崩が怖い。近くの露岩でアンカーを作り本谷右岸をトラバース気味に登り、1稜へ合流することにした。ここまで1時間半くらい。まずは僕がリードするも、寒すぎて指が痛くなり、2人とも唸りながら登った。つるべなので、次は濱ちゃん。無事1稜にのったところで待っていた。ここからしばらく濱ちゃんトップでコンテニユアス。ところどころプロテクションをとりながら、傾斜がキツくなるまで。ここからは尾根を左に捲いて雪面を2ピッチ、灌木でプロテクションをとりながら進み、再び尾根と合流。再びコンテニユアスに切り替える。そのまま核心といわれる10m弱のルンゼ直上を越えて灌木でセルフをとり、腰がらみで濱ちゃんを迎える。ルンゼには残地ハーケンが2本くらい？あり、問題なく登れてしまったが、やはりルンゼ下でスタカットに切り替えたほうが良かったと反省。あとは20mくらい適当に歩いて、12時ころ頂上着。5時間半くらいの登攀時間。寒くてビバ芦別！状態。少し休んで、新道を下りる。頂上直下の斜面は雪崩が気になる斜面、視界がないと気持ちわるい。今回はトレースがあったため、安心だった。50mくらい下りてスノーシューに履き替え、ひたすら新道を下る。標高が低くなると視界が開けてきて、気持ちいい。16時ころ無事下山して車に戻った。終始、芦別の姿は見れなくて残念だったものの、良いプレだったと思う。